

絵本を音楽で表現する創作活動における方法と可能性 (2)

—手作り楽器を導入して—

Methods and Possibilities in Creative Activities to Express Picture Books with Music (2) :
Introducing Handmade Musical Instruments

土谷 育代 (函館大谷短期大学) Ikuyo TSUCHIYA

要 約

本論は本学こども学科2年生の授業を対象に、「効果音」と「絵本の言葉を利用した歌」と「手作り楽器」を中心に絵本に音楽を付ける創作活動と発表の実践から、「手作り楽器を使った表現方法」、「手作り楽器を導入した創作方法」、「手作り楽器を導入した創作活動と発表の実践の意義」を明らかにすることを目的とした。表現方法では学生による自由な発想がみられ、創作方法では、音の表現を意識する創作方法と音楽を総合的に考える創作方法がみられた。そして創作活動では各学生がイメージした音楽を共有し、発表ではさまざまな表現の仕方に気付き楽しむことができることが明らかになった。

キーワード: 絵本 音楽 創作活動 表現 手作り楽器 保育者養成

1. 背景

1.1 前研究の課題

筆者は前研究の土谷 (2024) において、保育者自身が子どもを援助するために、創造性を豊かにする経験や活動が必要であると考え、本学こども学科2年「音楽表現演習Ⅰ」の授業で絵本に音楽を付ける創作活動と発表を実施した。創作活動は効果音と絵本の言葉を利用した歌を中心に、絵本に音楽を付ける方法であった。発表は絵本を読み、創作した音楽を付ける形で行った。①絵本を音楽で表現する具体的な方法、②創作活動と発表から得られるもの、③創作活動と発表を経験することからわかる絵本に音楽を付けて子どもと一緒に楽しむ方法の3点を明らかにすることを目的とし、①では絵本に掲載している曲を使わず、音と言葉にメロディーを付けることで、絵本に作曲、歌、楽器などの総合的で幅広い方法で創作ができ、②では創造性豊かな発表ができ、表現し合う楽しさを感じ取ることができ、③では子どもと一緒に活動可能なさまざまな要素が含まれていることを明らかにした¹⁾。

一方、2つの課題が浮かび上がった。1つ目は音楽経験の少なさを理由に創作に難しさを感じている学生がいたことである。2つ目は手作り楽器の使用を選択肢の1つとして伝えていたが、使用した創作活動はみられなかった。それゆえ、手作り楽器を使った絵本の表現方法の研究である²⁾。

1つ目の課題の音楽経験とは、ピアノなどの楽器や歌の演奏や作曲の経験と考えられる。確かに音楽を付けるうえで演奏や作曲の経験が多いことは役立つことではあるが、絵本に音楽を付ける創作活動は、絵本のイメージを表現する活動であり、絵本から感じた自由な発想での創作を意図している。そのため演奏や作曲の経験や技術よりも、イメージする音楽を感じたまま自由に表現する方が重要だと考える。そしてこのイメージする音楽を表現することは、2つ目の課題の音を意識して聴き作り出す手作り楽器を使用することで、イメージする音楽

への表現の発想に繋がるのではないかと考えられる。そこで音を聴くことと手作り楽器についての関係をまとめた。

1.2 音を聴くことと手作り楽器

1.2.1 音楽表現における音を聴くことの重要性

音を聴くことの重要性は、保育者が子どもを援助するうえで認識しておく必要がある。幼稚園教要領³、保育所保育指針⁴、幼保連携型認定こども園教育・保育要領⁵の領域「表現」の「内容」において、(1)「生活の中で様々な音、形、色、手触り、動き等に気づいたり、感じたりするなどして楽しむ」と(4)「感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする」と示されている。(1)では音を感じ、楽しむことが求められており、音を聴くことへの重要性がわかり、(4)の感じたことなどを音で表現することと関連していることがわかる。

音を聴くことに関しては、レーモンド・マリー・シェーファー (Raymond Murray Schafer) が「サウンドスケープ (sound scape)」という「音の風景」という言葉を提唱している⁶。このことに関連して大南 (2009) は、私たち自身がどのような音の環境の中で生活しているのかを再認識する考え方であり、単に音の大きさだけでなく、音の種類や聴こえ方についても注意深く考えていくことが必要と述べている⁷。また菅野 (2009) は音で何かを表現するためにも、表現手段としての音に耳を傾けて聴くという習慣が必要と述べていて、この耳の訓練のためにシェーファーが書いた『サウンド・エデュケーション』を紹介している⁸。加えて、シェーファーは子どものために『音さがしの本』⁹も出版しており、音を聴くことや、イメージするための耳のエクササイズを記述している。

以上から、音を聴くことの重要性は指摘されており、音で何かを表現するためにも、注意して音を聴くことが大切であるということがわかる。

1.2.2 手作り楽器

手作り楽器は、身の回りの素材を用いて作るオリジナルの楽器のことである¹⁰。手作り楽器についてはさまざまな研究がなされている。ここでは手作り楽器の製作、活動方法、物語に音楽を付ける方法などの先行研究を確認する。

(1) 手作り楽器の製作とリズム遊び・合奏

手作り楽器の研究では手作り楽器を製作し、リズム遊びや合奏をする活動が多くみられる。中村 (2010) は保育者養成大学の学生を対象に、子どもが使う楽器やその楽器から出る音に対してどのような思いを持っているのかを研究するために、手作り楽器の製作を課題とし、分析、考察している。その結果、学生の音を大切に扱う姿勢がかけていたことから音への認識を深めることの必要性を述べている。加えて、手作り楽器をピアノに合わせて自由に考えたリズムで表現し合奏する活動も行っている¹¹。山本 (2017) は保育者養成課程学生対象の授業として、児童館で子どもや親子を対象とした手作り楽器製作と演奏活動の企画実践をしている。手作り楽器製作をし、音遊び、子どもの歌に合わせた合奏、歌に合わせた演奏の活動をしている¹²。加藤 (2022) は親子で手作り楽器を製作し、楽器でリズム遊びをするための年齢別の動画を制作している。そして制作した動画を親子に閲覧、実践してもらう調査をしている。これにより、楽器に触れる機会と音楽への興味関心、コミュニケーションを深めることを確認したと述べている¹³。

谷中 (2018) は長年の手作り楽器を媒体とした教育活動の実践をベースにさまざまな手作り楽器の活動形態を、手作り楽器を作る、楽器を作り楽しむ、音の工夫、グループでの音あそび、創作表現活動 (作曲と合奏)、音楽づくりの実践的アプローチの6パターンに分類している。さらに、手作り楽器の活動を「子どもの創造性や豊かな感性を育むことのできる活動」、端的に表すと「生きる力を育む活動」としている¹⁴。

黒宮ら (2020) は5歳児を対象に手作り楽器のワークショップを実践している。手作り楽器を製作する過程と楽器で音を出す過程を考察し、子どもは探索的に音と関わりをもっていると述べている。また、製作した楽器でイメージを音にする表現活動とイメージを表現し伝達するゲームを実施し、全身を伴った表現についても述べている¹⁵。

また、吉原 (2020) はジョン・ケージの思想とレーモンド・マリイ・シェーファアの「サウンドスケープ」からヒントを得て、短期大学学生に対し、保育現場での「音さがし」と手作り楽器の創作と子ども対象の手作り楽器が何の音に聞こえるかのワークショップを実施している。手作り楽器の創作を通して、学生自身の自然の音、素材への興味、関心、意識を高め、表現の可能性を模索できたと述べている。保育現場の活用として、絵本読みの効果音で手作り楽器を用いるアイデアについても触れている¹⁶。

以上から、手作り楽器を製作し考察した結果、子どもの創造性や豊かな感性を育むことのできる活動、探索的な音との関わり、そして音への興味、関心、意識を高める事が確認されていることがわかる。一方で音への認識を深めることの必要性を指摘している研究者もいる。活動の多くはリズム遊びと合奏が挙げられていることがわかり、実施はしていないが絵本での効果音での活用のアイデアについても触れられている。

(2) 手作り楽器製作、ペープサート音楽劇・絵本で手作り楽器を使つての参加

北浦ら (2016) は「造形表現」「音楽表現」「身体表現」の3分野を取り入れて、総合的な表現活動を支援する方法を探究する目的として、親子講座で手作り楽器を用いた参加型ペープサート音楽劇を中心としたプログラムを実施している。北浦らが考えたペープサート音楽劇の中で、子どもたちは自作の手作り楽器であるカスタネットを使つて登場人物を応援する形で参加している¹⁷。

山本 (2020) は児童館で保育者養成課程学生対象の授業として手作り楽器の製作と音遊び、絵本の読み聞かせに合わせて子どもたちと学生が手作り楽器による音響を付けて発表する「視覚型」「参加型」の発表会を実施している。発達段階に見合う方法やグループ編成、声や音の行き届く環境、身体表現のためのスペースを課題として挙げている¹⁸。

以上から、聴衆である子どもが手作り楽器を使つて音楽劇や絵本の音楽に参加する活動が行われていることがわかる。ペープサート音楽劇は手作り楽器を劇の場面の音楽に付けるという使い方ではない。

(3) 手作り楽器を物語に付ける紹介

細田 (2006) は絵本に効果音を付ける方法として、色々な楽器や身の回りのもの、手拍子や足拍子、手作り楽器 (ポリバケツ太鼓) を使うことを紹介している¹⁹。井本 (2018) は話の中に効果音を付ける際に、声だけでなく身の回りの物や自然の素材や楽器などを使うことを紹介している²⁰。高橋 (2020) は手作り楽器の表現活動において絵本に合わせて音を奏でる活動について触れている²¹。また、櫻井 (2012) は保育と小学校教諭を目指す大学2年生に対し、紙芝居に効果音を付ける活動とその発表を実施している。ピアノや打楽器、身の回りの物を使つてイメージの音を表現する活動である。音を傾聴し、楽器の特性を理解することに繋がり、音楽の諸要素に着目し、保育者と教師に求められる視点を培う体験であると述べている²²。

以上より手作り楽器を絵本などの物語に効果音として付ける方法が紹介されていることがわかった。また手作り楽器の製作はしていないが、既存の楽器だけではなく身の回りの物で音を表現する活動もされている。

1.2.3 音を聴くことと手作り楽器のまとめ

音で表現をするうえで、注意して音を聴くことが大切なことを確認した。そして手作り楽器は子どもの創造性や豊かな感性を育むことのできる活動であり、音への興味、関心、意識を高めることが確認されており、製作する際に音への認識を深める必要があることも指摘されていることがわかった。そしてこのように手作り楽器と音を聴くことは関連していることはすでに指摘されていることがわかった。また活動はリズム遊びと合奏が

紹介されているが、絵本での効果音での活用のアイデアについても紹介されていることがわかった。

絵本に音楽を付ける創作活動に手作り楽器を加えることは、自ら楽器を製作し、それを使うことで音への意識が高まると考える。この音への意識は絵本にイメージする音楽を創作するための自由な発想に繋がるのではないかと考える。しかし絵本に手作り楽器で音楽を付けた具体的な例は少なく、その過程や意義については明らかにされていない。

2. 目的

そこで、本研究では、本学こども学科2年の「音楽表現演習Ⅰ」の授業で絵本に音楽を付ける創作活動と発表を実施する。前研究²³の創作方法である絵本に効果音と言葉にオリジナルのメロディーを付けて歌を創作することに加えて、手作り楽器で音楽を付ける創作活動をし、実際に絵本を読み、演奏して発表する。そして実践結果から、①手作り楽器を使った表現方法、②手作り楽器を導入した創作方法、③手作り楽器を導入した創作活動と発表の実践の意義を明らかにする。

3. 対象と方法

3.1 対象

本学こども学科2年2024年前期「音楽表現演習Ⅰ」の授業の受講生34人（Aクラス16人、Bクラス18人）。

3.2 実施期間

2024年前期「音楽表現演習Ⅰ」においてAクラスは第10回7月9日から第15回8月27日までの授業の中で実施した。Bクラスは第10回7月9日から第14回8月20日までの授業の中で実施した。

3.3 方法

「音楽表現演習Ⅰ」の授業では、本研究の絵本に音楽を付ける創作活動を実施する前に必要な活動を実施した。それは音を聴く活動と、手作り楽器製作と手作り楽器を使って学生が考えた合奏、打楽器での合奏と打楽器を子どもの歌に学生が付けて合奏する活動である。音を聴く活動では、音を聴く重要性を知るために、1. 2.1で取り上げたシェーファーの『音さがしの本』²⁴を参考に音を聴く活動、千葉（2020）の環境音を聴き、音を表現する活動²⁵、香宗我部（2020）の音当てゲーム²⁶を実施している。手作り楽器製作では香宗我部（2009）が示した楽器の鳴る仕組みである4つのパターン（弾く、叩く、擦る、振る）²⁷を製作した。これらの経験を踏まえて絵本に音楽を付ける創作活動の実施をする。

1クラス4、5人のグループを作り、グループで絵本にイメージに合う音楽を付ける創作活動を実施し、クラス内で発表をした。発表後に創作活動と発表に対しての工夫や感想を記入するシートを配布し、学生自身が振り返りをした。創作活動の方法は土谷（2024）で実施した創作方法（効果音と絵本の言葉を利用した歌を中心とした絵本に音楽を付ける方法）²⁸に、手作り楽器の使用を加える方法とした。

第10回から第15回までの授業の流れを記す（Bクラスは第14回で終了したが、Aクラスの1グループだけ発表が第15回になったため、Aクラスは第15回で終了となった）。授業は前研究²⁹の内容を基に、音を聴くことと手作り楽器について意識する内容を付け加えた。変化した箇所は下線で示した。学生が使用した絵本と教材として取り上げた絵本とCDは最後のページにまとめた。

なお、学生には研究の目的や内容を説明し、授業で実施した過程における資料の使用を同意書に署名をもって同意を得た。

(1) 1回目 (第10回)

絵本と音楽の関係性の理解を目的として、学生に絵本と音楽の関係を説明した。河合 (2001) の『絵本の力』³⁰を参考に、『ふゆめ がっしょうだん』、『アフリカの音』、『よるのようちえん』 (今回追加) を例に絵本から音が聞こえてくることを紹介した。また絵本に楽譜が掲載されている例として、『よるのようちえん』、『やさしいライオン』、『ねこのピート だいすきなしろいくつ』をピアノで演奏し紹介した (今回追加)。

そして、絵本に音楽を付けることの理解を目的として、絵本を用いた音楽表現の具体例を4例紹介した。絵本に歌が付けられた『はらぺこあおむし』を取り上げ、CDをかけ、『はらぺこあおむし』の絵本を見た。『うたがみえる きこえるよ』を取り上げ、作者紹介のモーツァルト作曲『セレナード第4番ニ長調』K.203の〈メヌエットニ長調〉のCDをかけ、絵本を見た。細田 (2006) の『おむすびころりん』の効果音を付けて遊ぶ方法³¹と中野 (2021) の『さんびきのこぶた』の物語に音楽を付ける例³²を紹介した。

(2) 2回目 (第11回)

物語に音楽を付ける方法として、疇地 (2020) の、「①演奏する場面の音楽、②場面の情景や登場人物の心象を表す音楽、③効果音」³³があることと、井本 (2018) の、歌の挿入方法として話の場面の歌、話の言葉に合わせる歌があることと、音の付け方として無音とする方法 (今回追加) があること³⁴を学生に伝えた。無音については音をイメージする上で大切なことと考えたため、追加した。

そして、絵本にイメージした音楽を付ける創作活動をするように説明した。課題として、音楽は自由に付けるが、効果音と、絵本の言葉を利用したオリジナルのメロディーの歌の創作と、手作り楽器の使用 (今回追加) を必ず取り入れることとした。手作り楽器はイメージに合う手作り楽器を製作するか、以前授業で製作した手作り楽器がイメージに合う場合は使ってもよいこととした。学校にある楽器は自由に使ってもよいことも伝えた。

絵本に付ける効果音の具体例として、神原・鈴木 (2018) のイメージサウンド³⁵を紹介した。

絵本の言葉に付けるオリジナルのメロディーの歌は、絵本の文か、絵本の言葉や内容をイメージして考えた言葉にメロディーを創作することとした。言葉にメロディーを付ける方法は、廣末 (2017)³⁶と須崎ら (2012)³⁷を参考に筆者が前研究³⁸で考えた言葉を紙に書き出し、唱えてそのリズムや抑揚を利用してメロディーを創作する方法を伝えた。メロディー作成のためにミニ鍵盤 (32鍵) であるCasionoteミニキーボードSA-51を用意した。また、手作り楽器の本『親子で! おうちで! さくっとできる! 超★簡単 楽器づくり』³⁹、『音が出るおもちゃ&楽器あそび』⁴⁰を参考のため用意した。

グループで絵本を選ぶことから開始した。絵本は筆者が29冊用意した。グループで選んだ絵本は表1に記した。

(3) 3、4回目 (第12、13回)

絵本にイメージに合う音楽を付ける創作活動をした。

(4) 5、6回目 (第14、15回)

クラス別で、グループごとに発表をした。お互いに発表を見合う形とした。発表後振り返りシートを記入した。第14回目でBクラスは終了した。第15回目Aクラス4のみが発表し、発表後振り返りシート (前回のシート) に再記入して終了した。

表1 グループが選んだ本と使用楽器と時間

グループ (発表人数)	時間	音楽を付けた絵本の題名	作者等	使用楽器
Aクラス1 (4人)	2分35秒	『どんなおと』	Tupera Tupera 作 (教育画劇)	メタルカバサ、手作り楽器a ギロ、大太鼓、シンバル、手作り楽器b ストローラッパ、ウインドチャイム
Aクラス2 (3人)	5分45秒	『めつきらもつきら どおんどおん』	長谷川摂子作・ふりやなな画 (福音館書店)	キーボード、鉄琴、手作り楽器c ストロー笛、
Aクラス3 (2人)	5分15秒	『ぐりとぐら』	中川李枝子作・大村百合子絵 (福音館書店)	手作り楽器d 太鼓、手作り楽器e ギロ・マラカス、タンブリン
Aクラス4 (4人)	5分30秒	『ドオン!』	山下洋輔文・長新太絵 (福音館書店)	グランドピアノ、手作り楽器fgh 太鼓、大太鼓、小太鼓、鉄琴、カスタネット、鈴
Bクラス1 (5人)	2分50秒	『どんなおと』	Tupera Tupera 作 (教育画劇)	メタルカバサ、マラカス、大太鼓、シンバル、キーボード、小太鼓、カスタネット、手作り楽器i マラカス、ギロ、コキリコ、ミュージックベル、ウインドチャイム
Bクラス2 (4人)	3分30秒	『ねこのビート だいすきなしろいくつ』	エリック・リトウィン作・ジェームス・ディーン絵・大友剛訳・長谷川義史文字画 (ひさかたチャイルド)	キーボード、手作り楽器jk マラカス、タンブリン
Bクラス3 (3人)	1分30秒	『ころころころ』	元永定正作 (福音館書店)	手作り楽器l マラカス、木琴
Bクラス4 (3人)	3分40秒	『きょだいな きょだいな』	長谷川摂子作・降矢なな絵 (福音館書店)	グランドピアノ、大太鼓、手作り楽器m マラカス、メタルカバサ

4. 結果

グループの創作活動の様子と発表と振り返りシートの感想は以下のとおりである。

4.1 グループによる創作

8グループの絵本に音楽を付けた創作活動の結果を表にまとめた。発表人数は欠席者を除いた人数である。絵本のページ数と文をのせ、それに対して付けた音楽の内容を記した。また、学生が記入した振り返りシートより創作活動で工夫した点を表にまとめた。各グループの特徴を記した。譜例は筆者が学生の演奏を書き起こしたものである。

①Aクラス1

表2 Aクラス1『どんなおと』発表人数4人 時間2分35秒

ページ数	絵本の文	付けた音楽
1	どんなおと (題)	オリジナルのメロディーを付けて、歌う。歌った後に「はじまりはじまり」と言いながら、手拍子、メタルカバサを鳴らす。
2	てを たたいたら どんなおと?	文の後に両手で手拍子をする。
4	りんごを かじったら どんなおと?	文の後に「シャリ シャリ」と言う。
5	はみがき すると どんなおと?	文の後に手作り楽器a ギロ (空のペットボトル) をばちで擦って鳴らす。
6	おかあさんの おならは どんなおと?	文の後に「ブッ」(女性の声)と言う。
6	きみの おならは どんなおと?	文の後に「プーウ」(女性の声)と言う。
7	ぞうの おならは どんなおと?	文の後に「ブウ」(男性の声)と言う。
8	たいこを たたいたら どんなおと?	大太鼓をばちで1回鳴らす。
9	シンバルを ならしたら どんなおと?	シンバルを1回鳴らす。
9	ラッパを ふいたら どんなおと?	手作り楽器b ストローラッパ (紙とストロー) を「ピッピビー」と吹いて鳴らす。
14	あめの ふるおと どんなおと?	メタルカバサを振って3回鳴らす。
15	かみなりの なるおと どんなおと?	大太鼓をばちで8ページの「たいこ」より長めに1回鳴らす。
18	せかいじゅうの めざましどけいが どうじに なったら どんなおと?	ウインドチャイムを鳴らす。
22	たいようが ふつとんだら どんなおと?	シンバル、手作り楽器b ストローラッパ、ウインドチャイム、大太鼓を鳴らす。
24	めをとじて ーいま どんなおとが きこえる?	文の後に手作り楽器b ストローラッパを吹いて鳴らす。

表3 Aクラス1『どんなおと』創作活動で工夫したこと

①短いフレーズに音を付け、子どもたちにも真似ができるような簡単な音にした。	②皆が親しみやすく、耳障りにならないような音付けをした。	③イメージしやすいような音付けをした。	④絵本にある楽器を実際に使用した。
---------------------------------------	------------------------------	---------------------	-------------------

Aクラス1は、題名「どんなおと」に言葉の抑揚を利用したオリジナルのメロディーを作った。付点の弾むようなリズムが、どんな音なのか楽しく期待する効果を生んでいる。さらに長2度ずつ下行したメロディーが最後に完全5度上行し、疑問文を音で表現している（譜例1）。

譜例 1



「どんなおと?」という音を尋ねる文の後にグループでイメージした音を既存の楽器、手作り楽器、声で表現していた。

手作り楽器は2種類製作した。本当の歯磨きのような音を空のペットボトルをギロのように擦って鳴らし、ストローと紙を使ったストローラッパで壊れたラッパのような音を表現していた。

表3より、子どもたちにも真似できる簡単な音や、イメージしやすい音、親しみやすく耳障りにならない音など、音の表現に対して意識していたことがわかる。

このグループは創作過程において表現したい音を追求し、自分たちの出したい音を探すことに時間をかけていた。一部（10～13、16～17、20～21ページ）をカットしての発表となった。

②Aクラス2

表4 Aクラス2『めっきらもつきら どおんどおん』発表人数3人 時間5分45秒

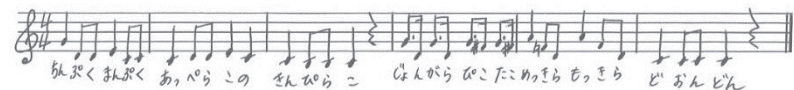
ページ数	絵本の文	付けた音楽
3	ちんぶく まんぶく あつべらこの きんびらこ じよんがら びこたこ めっきらもつきら どおんどん	オリジナルのメロディーを付け、キーボードを弾きながら歌う。
6、7	ひゅうっと あなに すいこまれて おちる おちる おちる	キーボードの音色をシーソーに変え、鍵盤を押し、「サーア」と風に吹かれるような音を鳴らす。これと同時に鉄琴をグリッサンドで鳴らす。
10、11	やってくるなり、おかしな 3にんは〜かんたが いうとー	鉄琴でオリジナルのBGMを弾く。
16	モモンガーごっこが はじまった。〜あせ びつしよりになっ た。	手作り楽器cストロー笛（ストロー）を「ピッ ピッ ピッ」と2人で吹いて鳴らす。
19	ほら、のぞいてごらん。うみが みえるよ。	キーボードの音色をホイッスルに変え、効果音（D）を鳴らす。
21	やまを けとばせ びよん びよん〜135かいも とんだ。	キーボードの音色をメロディックタムに変え、効果音（細跳びをしている音）を鳴らす。
22	ちんぶく まんぶく あつべらこの きんびらこ じよんがら びこたこ めっきらもつきら どおんどん	オリジナルのメロディーを付け、キーボードを弾きながら歌う（3ページと同じ）。
27	かんたは ひとりで つきを みているうちに、〜よぞらに む かって おおごえで「お・か・あ……」	キーボードでBGM《きらきら星》を弾く。

表5 Aクラス2『めっきらもつきら どおんどおん』創作活動で工夫したこと

①場面に合わせて、BGMのように音楽を涯山付けるようにした。 ②題名にもなっている部分を歌にすることで、印象に残るように工夫した。③キーボードをその場面の雰囲気に合わせて、鉄琴やオルゴールのような音に変えた。 ④絵本の絵にあてはまるような音楽を考え、本当にその音が出ているようにした。 ⑤場面に合わせて音を変えた。 ⑥寝るシーンで《きらきら星》を弾いて夜とわかるようにした。 ⑦ストロー笛で3人のぼけものが来るシーンでぼけものの感が感じられるようにした。 ⑧細跳びを飛ぶシーンを、イカ踊りの音に似た音で演出した。
--

Aクラス2は、3、22ページの主人公の大声で滅茶苦茶に作った歌に合わせて、言葉の抑揚を利用したオリジナルのメロディーを作った。メロディーは前半の3小節が4分音符と8分音符でできているが、後半4小節目のみ付点のリズムになり、また5小節目から前半の4分音符と8分音符のリズムに戻るメロディーである。途中の付点のリズムとシャープ記号でメロディーに変化が出ているのが特徴的である。このメロディーは2回使われ、印象付けられていた（譜例2）。

譜例 2



手作り楽器ではストロー笛を作った。そして16ページの主人公がモモンガーごっこをして飛ぶ様子を「ビッ
ビッビッ」と鳴らし、不気味であるが面白い様子を表現していた。

キーボードの音を何種類も活用し、効果音の音を追求していた。また鉄琴でオリジナルのBGMも作曲してい
た（譜例3）。

譜例 3



27ページの夜の場面では、BGMにフランス民謡《きらきら星》をキーボードで弾き、夜を表現していた。
表5より、キーボードや手作り楽器などを使って場面に合わせた音楽を付け、歌で印象付ける効果を考えるな
ど、音楽を総合的に考えたことがわかる。地元の祭りの踊りであるイカ踊りの音のイメージで、21ページの縄跳
びのシーンを表現していたことがわかる。

このグループは創作過程においてグループで絵本のイメージに合う音を主にキーボードで試しながら、細か
く考えている様子だった。何度も練習し、歌、BGM、手作り楽器など様々な表現方法で総合的に工夫し絵本の
世界を丁寧に表現し、完成させていた。

③Aクラス3

表6 Aクラス3『ぐりとぐら』発表人数2人 時間5分15秒

ページ数	絵本の文	付けた音楽
7	たまごが、おちていました。「やあ、なんて おおきな たま ごだろう。～めだまやきが できるぞ」	「たまご」の部分を手作り楽器d太鼓（バケツ、プラスチック皿）で鳴らす。
9	ぐりが ぼんと てをたたきました。～ぐらも ぼんと てをた たきました。	「ぼん」の部分を手作り楽器d太鼓で鳴らす。
11	いちばん おおきな おなべ、こむぎこ、ばたー、ぎゅうにゅ う、～りゅつくさつく。	手作り楽器eギロ・マラカス（プラスチック容器、円筒、画用紙）を「カサカ サ」「カチャカチャ」と鳴らす。
14	「さあ、たまごを わるぞ！」	「たまご」の部分を手作り楽器d太鼓で鳴らす（7ページと同じ）。
14	ぐりは げんこつで、たまごを たたきました。	文の後にタンブリンを1回鳴らす。
16	いしで たたくと、やっと、われました。	「いしで たたくと」の後に手作り楽器d太鼓を1回叩いて鳴らす。
16	おさとうと いっしょに～こむぎこを いれました。	手作り楽器eギロ・マラカス（プラスチックの容器）（11ページと同じ）を擦っ て「カサカサ サササ」と鳴らす。
21	かすてらづくりの ぐりと ぐら けちじゃないよ ぐりと ぐ ら	アカペラでオリジナルのメロディーを付けて歌う。
25	なにを つくったと おもいますか？	文の後にタンブリンを振って鳴らし、最後に1回手で叩いて鳴らす。

表7 Aクラス3『ぐりとぐら』創作活動で工夫したこと

①歌を考えるとときに、言葉のリズムや高低を崩さないように意識した。 ②手作り楽器の太鼓を使うタイミングや、音を出すタイミング。

Aクラス3は、効果音を工夫して創作し、発表していた。9ページの「ぼん」の言葉を目立たせる効果音を手作
り楽器で表現した。7、14ページにある話の中で重要な「たまご」の言葉3音に手作り楽器で効果音を付けて言
葉を強調させていた。また手作り楽器を11ページの登場人物が荷物を準備する場面、16ページの料理する場
面で効果音として使い、実際の音を表現していた。16ページの石で叩いた音を手作り楽器で再現していた。

付点のリズムで弾むような楽しい気分を表現したオリジナルのメロディーを作っていた（譜例4）。

譜例 4



表7より、鳴らすタイミングをよく考えていたことがわかる。

このグループは大部分を手作り楽器で音楽を表現していた。言葉の強調、実際の音をリアルに表現する方法として手作り楽器を使っていた。手作り楽器は2種類とも以前授業で製作したものを使った。

④Aクラス4

表8-1 Aクラス4『ドオン!』発表人数4人 時間5分30秒

ページ数	絵本の文	付けた音楽
5	とうとう うちから おいだされました。	文の後にグランドピアノで効果音を弾く。
9	とうとう うちから おいだされました。	文の後にグランドピアノでグリッサンドを弾く。
11	そして、ドン! と たいこを たたきました。	文の後に手作り楽器2個 f 太鼓 (缶大) g 太鼓 (缶小) をばちで鳴らす。
12	ドン! ドン!	文の後に手作り楽器 f 太鼓をばちで鳴らす。
13	ドンドコ ドンドコ ドン!	文の後に手作り楽器 f 太鼓をばちで鳴らす。
16	ドンドコ ドンドコ ドンドコ ドン! (2回)	文の後に小太鼓をばちで鳴らす。
16	ドンドコ ドンドコ ドンドコ ドン! (2回)	文の途中から小太鼓、手作り楽器 f 太鼓、手作り楽器 h 太鼓 (箱) をばちで鳴らす。
18	ドカシャバ ドカシャバ ドカドカドカ! (2回)	文を読みながら、大太鼓、小太鼓、手作り楽器 f 太鼓、太鼓 h をばちで鳴らす。
20	トントコ トントコ トントコトン! (2回)	文を読みながら、手作り楽器 f 太鼓をばちで鳴らす。
21	コンココ コンココ コケコッコ! (2回)	文を読みながら、手作り楽器 g 太鼓、h 太鼓をばちで鳴らす。
21	ドーン モウモウ ドーンドーン! (2回)	「ドーンドーン!」の部分で大太鼓をばちで鳴らす。
25	ドンドコ ドンドコ ドカシャバ ドカシャバ (2回)	文を読みながら、手作り楽器 f 太鼓、小太鼓、鉄琴、カステネット、鈴を一斉に鳴らす。
26、27	ドオン! とあいました。	「ドオン」に合わせて、大太鼓、手作り楽器 f 太鼓、太鼓 g をばちで鳴らす。
28、29	ワンハハハ (両ページ全てに、笑い声の文字)	笑い声に合わせて、手作り楽器 f 太鼓、g 太鼓、鉄琴をばちで鳴らす。

表8-2 Aクラス4『ドオン!』オリジナルのメロディーの歌

ページ数	絵本の文	付けた音楽
20	タンタカ タンタカ ニャンタカタン!	オリジナルのメロディーを付け、グランドピアノで弾きながら歌う。その後に手作り楽器 g 太鼓、h 太鼓をばちで鳴らす。
21	コンココ コンココ コケコッコ!	オリジナルのメロディーを付け、グランドピアノで弾きながら歌う。その後に手作り楽器 f 太鼓、g 太鼓をばちで鳴らす。
21	ドーン モウモウ ドーンドーン!	オリジナルのメロディーを付け、グランドピアノで弾きながら歌う。「ドーン」に合わせて大太鼓をばちで鳴らす。

表9 Aクラス4『ドオン!』創作活動で工夫したこと

①手作り楽器では、綺麗にみえるようにテープをしっかりと貼り、音がより大きく出るように、おはじきをばちに付けた。
②新しく楽器を作り、大きさを変えオノマトペに合わせて使った。 ③手作り楽器を主体にして物語の展開をわかりやすくなるようにした。 ④太鼓が主になる絵本なので、太鼓を作り色々な楽器を入れた。

Aクラス4は、太鼓が出てくる話であり、手作り楽器で3種類の太鼓を製作し表現していた。3種類の手作り楽器に変化を出し、絵本の太鼓の音色のイメージを表現していた。

創作過程では絵本の絵のような太鼓を作る案や、絵を太鼓に書く案が出たが、イメージした音を作ることも必要という意見も出た。絵本の登場人物が首にぶら下げている太鼓に似せた太鼓を2個製作した。

グランドピアノを使ってグリッサンドや低音などを効果的に使い、音を表現していた。

20、21ページの文に言葉の抑揚を利用したオリジナルのメロディーを作った(譜例5)(譜例6)(譜例7)(譜例8)。太鼓を叩く音が歌になっている。

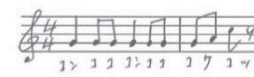
譜例5



譜例6



譜例7



譜例8



このグループは、手作り楽器、大太鼓、小太鼓など5種類の太鼓を使って音楽を表現していた。

表9より、手作り楽器の見た目、音の大きさなど手作り楽器を中心に考えていたことがわかる。

また、創作活動で時間がかかり、練習時間が充分ではなかったようである。発表の際に歌を抜かして発表してしまったため、発表後抜かした歌の部分だけを発表した。

⑤Bクラス1

表 10 Bクラス1『どんなおと』発表人数5人 時間2分50秒

ページ数	絵本の文	付けた音楽
2	てを たいたたら どんなおと？	文の後に両手で「パチッ」と鳴らす。
4	りんごを かじったら どんなおと？	文の後にメタルカバサを振って鳴らす。
5	はみがき するおと どんなおと？	文の後にマラカスを振って鳴らす。
6	きみの おならは どんなおと？	文の後に大太鼓を手で「トーン」と叩いて鳴らす。
6	おかあさんの おならは どんなおと？	文の後に大太鼓を手で「パーン」と叩いて鳴らす（6ページの「きみの～どんなおと？」より強く叩く）。
7	ぞうの おならは どんなおと？	文の後に大太鼓を手で「パチーン」と叩いて鳴らす（6ページの大太鼓より強く叩く）。
8	たいこを たいたたら どんなおと？	文の後に大太鼓をばちで1回鳴らす。
9	シンバルを ならしたら どんなおと？	文の後にシンバルを1回鳴らす。
9	ラッパを ふいたら どんなおと？	文の後にキーボードの音色をバリトンサックスに変え、効果音（C）を鳴らす。
10	スプーンと フォークと～いっぺんに おちたら どんなおと？	文の後にシンバルを1回鳴らし、小太鼓をばちで5回鳴らす。
12	うまの はしるおと どんなおと？	カステネットを鳴らす。
13	でんしゃの はしるおと どんなおと？	文の後にキーボードの音色をシーショアーに変え、効果音を「サー」と鳴らす。
13	くるまの はしるおと どんなおと？	文の後にキーボードで効果音を弾く。
14	あめの ふるおと どんなおと？	文の後に手作り楽器「マラカス（乳酸菌飲料容器 小豆）を振って鳴らす。
15	かみなり なるおと どんなおと？	文の後に大太鼓を両手で交互に叩いて鳴らす。
16	わにの はぎしり どんなおと？	文の後にギロを4回擦って鳴らす。
17	むかでの はくしゅ どんなおと？	文の後にコキリコを4回鳴らす。
17	もぐらの いびき どんなおと？	文の後にキーボードの音色をドラムセットに変え、効果音を「カラーン」と鳴らす。
18	せかいじゅうの めがましどけいが どうじに なったら どんなおと？	文にオリジナルのメロディーを付けてキーボードを弾きながら歌う。歌の後、ミュージックベルを全員1個持ち、振って鳴らす。
20	しずかな～ちようちよが はなを とじるおと どんなおと？	文の後にウィンドチャイムを鳴らす。
22	たいようが ふっとんだら どんなおと？	文の後にシンバルを1回鳴らす。
24	めをとじて～どんなおとが きこえる？	無音

表 11 Bクラス1『どんなおと』創作活動で工夫したこと

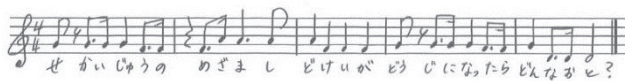
①言葉やシーンに合わせた楽器を使用した。シーンによって同じ楽器の演奏方法を変え、イメージに合うようにした。②音の出し方で絵本の内容を表せるようにした。③音のバリエーションが多い絵本だったので、それぞれの音に合った楽器を探し、鳴らし方やリズムなどを工夫して演奏した。
--

Bクラス1は、「どんなおと？」の文の後に音楽を付ける創作であった。22ほどの音を丁寧に詳細に表現した。同じ楽器でも鳴らし方を変えるなどの工夫がみられた。

表11より、イメージに合うように同じ楽器でも演奏方法を変え、イメージに合う楽器を探し、鳴らし方やリズムを変えるなど工夫していたことがわかる。

手作り楽器では、乳酸菌飲料容器と小豆でマラカスを作り、14ページの雨の降る音を表現していた。
オリジナルのメロディーでは、付点のリズミカルなメロディーを作った。わらべうたに多くみられる民謡音階で作曲されていた（譜例9）。

譜例 9



最後の24ページの「めをとじて みみを すましてごらん いまどんなおとが きこえる？」を無音で表現していた。

このグループは創作過程において、学校にあるさまざまな楽器を鳴らしながら、イメージに合う音を注意深く聴き、意見を出し合い、考える姿がみられた。

⑥Bクラス2

表12 Bクラス2『ねこのビート だいすきなしろいくつ』発表人数4人 時間3分30秒

ページ数	絵本の文	付けた音楽
5	しろい くつ かなり さいこう！ (3回)	33ページの《ねこのビート だいすきな しろいくつ》の歌をキーボードで伴奏を付けて歌う。
6	なんてこった！	文の前にキーボードで効果音を弾く。
6	ビートがのぼったのは なんのやま？	文の後にキーボードでグリッサンドを弾く。
7	ビートのくつは なにいろに なった？	文の後に手作り楽器2個j マラカス (ペットボトル2個、鈴、ストロー)、k マラカス (キッチンペーパー芯、プラスチック容器、ホッチキス芯、ビーズ) を振って鳴らす。
9	ビートは ないてる？ ないてない！	文にオリジナルのメロディーを付けて、キーボードを弾きながら歌う。
11	あかい くつ かなり さいこう！ (3回)	33ページの歌をキーボードで伴奏を付けて歌う (5ページと同じ)。
12	なんてこった！	文の前にキーボードで効果音を弾く (6ページと同じ)。
12	ビートがのぼったのは なんのやま？	文の後にキーボードでグリッサンドを弾く (6ページと同じ)。
13	ビートのくつは なにいろに なった？	文の後に手作り楽器2個j マラカス、k マラカスを振って鳴らす (6ページと同じ)。
15	ビートは ないてる？ ないてない！	文にオリジナルのメロディーを付けて、キーボードを弾きながら歌う (8ページと同じ)。
16	あおい くつ かなり さいこう！ (3回)	33ページの歌をキーボードで伴奏を付けて歌う (5ページと同じ)。
18	なんてこった！	文の前にキーボードで効果音を弾く (6ページと同じ)。
18	ビートが はいったのは なに？	文の後にキーボードでグリッサンドを弾く (6ページと同じ)。
19	ビートのくつは なにいろに なった？	文の後に手作り楽器2個j マラカス、k マラカスを振って鳴らす (6ページと同じ)。
21	ビートは ないてる？ ないてない！	文にオリジナルのメロディーを付けて、キーボードを弾きながら歌う (8ページと同じ)。
22	ちゃいろい くつ かなり さいこう！ (3回)	33ページの歌をキーボードで伴奏を付けて歌う (5ページと同じ)。
24	なんてこった！	文の前にキーボードで効果音を弾く (6ページと同じ)。
25	ビートのくつは なにいろに なった？	文の後に手作り楽器2個j マラカス、k マラカスを振って鳴らす (6ページと同じ)。
27	ビートは ないてる？ ないてない！	文にオリジナルのメロディーを付けて、キーボードを弾きながら歌う (8ページと同じ)。
28	ぬれた くつ かなり さいこう！ (3回)	33ページの歌をキーボードで伴奏を付けて歌う (5ページと同じ)。
32	そう それが だいじ！	文の後にタンブリン2個を叩き鳴らすと同時に、キーボードで効果音を鳴らす。
32	きょうも かなり さいこう！	「かなり さいこう」の文を33ページの歌の「かなり さいこう」のメロディーを使い、キーボードで伴奏を付けて歌う

表13 Bクラス2『ねこのビート だいすきなしろいくつ』創作活動で工夫したこと

①耳に残る音楽や言葉に華やかさをもたらし音をつけ、ただ絵本を読み語りするのではなく、子どもたちが楽しめて絵本を見た後に思わず口ずさんでしまうような音・音楽を付けることを工夫した。②同じ言葉が出てくる部分は、同じ音楽を付けてわかりやすくした。③オリジナルの音楽を付ける時に、歌う人が歌いやすくなるように前奏を入れた。④同じフレーズの箇所と同じ音をつけ、子どもたちも一緒になって歌ったり、セリフを言ってみたりするかなと思いながら作った。
--

Bクラス2の創作内容は、始めに33ページに掲載されている歌を歌った。この歌は5、11、16、22、28ページの同じパターンの文に付けられている歌である。そして「なんてこった!」と驚いた様子を作曲した効果音で表現した(譜例10)。「なんのやま?」の質問を、グリッサンドで表した。「なにいろになった?」の質問の答えの前では、注目させ、場面が盛り上がるように手作り楽器のマラカスを鳴らした。そして9、15、21、27ページの同じ文にオリジナルのメロディーを作った。メロディーは前奏付きで、質問を上行形で解決を下行形で表現している(譜例11)。

譜例10



譜例11

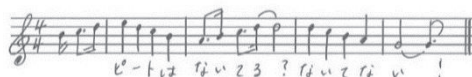


表13より、子どもが楽しめて、口ずさみ一緒に歌えるように考えていたのがわかる。同じ言葉に同じ音楽を付ける、耳に残る音や華やかな音をつける、歌に前奏を付けるなどイメージを細かく表現しようとする工夫がみられる。

このグループは絵本選びを慎重に行っていた。創作活動では絵本を読みながら、音楽をどこに付けるかを話し合いながら丁寧に考えている様子だった。33ページに掲載されている歌と自分たちで考えた歌を交互に繰り返し、バランスよく融合させ印象付けられていた。手作り楽器は授業で製作したものを使用した。集中して創作活動を終え、何度も練習して手直しをしながら完成させていった。

⑦Bクラス3

表 14 Bクラス3『ころ ころ ころ』発表人数3人 時間1分30秒

ページ数	絵本の文	付けた音楽
1	いろだま ころころ	手作り楽器1マラカス（プラスチック、小豆）を「カサ カサ」と振って鳴らす。
2	ころ ころ ころ	文にオリジナルのメロディーを付けて歌う。文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
4	(かみだんみち) ころ ころ ころ	文にオリジナルのメロディーを付けて歌う。文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
5	ころ ころ ころ	文にオリジナルのメロディーを付けて歌う。文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
7	(あかいみち) ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
8	ころ ころ ころ	文にオリジナルのメロディーを付けて歌う。文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
9	ころ ころ ころ	文にオリジナルのメロディーを付けて歌う。文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
11	(でこぼこみち) ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
12	さかみち ころころ	手作り楽器1マラカスを振って鳴らす。
13	ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
15	(おちてしまった) ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
17	(あらしの みち) ころ ころ ころ	文にオリジナルのメロディーを付けて歌う。文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
18	やまみち ころころ	手作り楽器1マラカスを振って鳴らす。
19	ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
20	ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
21	ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。
23	(すべりたい) ころ ころ ころ	文の後に木琴でグリッサンドを鳴らす。

表 15 Bクラス3『ころ ころ ころ』創作活動で工夫したこと

①音に合った楽器を探し、その中に手作り楽器を取り入れた。 ②同じ音をどう表現するか考えた。

Bクラス3は、「ころ ころ ころ」の文のいろだまが転がっていく様子を、木琴をグリッサンドで演奏することで表現した。「ころ ころ」の文は手作り楽器マラカスを2回鳴らして、言葉の響きを表現していた。

オリジナルのメロディーの歌は上行する形でいろだまが転がっている様子を表すものとなっていた（譜例12）。

譜例 12



表15より、音の表現方法に注目して考えていたことがわかる。

このグループは、全体を通していろだまが転がる様子を木琴でグリッサンドを弾くことで、シンプルに音を表現していた。

⑧Bクラス4

表 16 Bクラス4『きょだいな きょだいな』発表人数3人 時間3分40秒

ページ数	絵本の文	付けた音楽
2	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う。
5	キラリラ グーーン	「キラリラ」の後にグランドピアノで効果音を弾く。「グーーン」の後にグランドピアノで効果音を弾く。
5	コキーン ゴガーン	「コキーン」の後にグランドピアノで効果音を弾く。「ゴガーン」の後にグランドピアノで効果音を弾く。
6	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う（2ページと同じ）。
10	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う（2ページと同じ）。
13	「ふっ ふっ ふっへじごくに おちたいわすは どなたかす」	文の後に太鼓を1ばちで3回鳴らす
14	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う（2ページと同じ）。

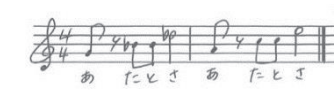
18	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う（2ページと同じ）。
19	ガラスの そらに ほしが ふる	文の後に手作り楽器 m マラカス（トイレットペーパー芯、カプセル、ビーズ、スパンコール）を振って鳴らす。
20	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う（2ページと同じ）。
25	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う（2ページと同じ）。
26	あつというまに あめ ザーザー	文の後にメタルカバサを振って鳴らす。
29	あったとき あったとき	文にオリジナルのメロディーを付け、グランドピアノを弾きながら歌う（2ページと同じ）。
30	くるるるるるる……	文の後に《こどもはかぜのこ》をグランドピアノの伴奏を弾き歌う。

表 17 Bクラス4『きょだいな きょだいな』創作活動で工夫したこと

①その場面に合った楽器を選び、イメージが膨らむようにした。 ②何度も出てくるフレーズがあったので、メロディーを付けて繰り返し楽しめるようにした。 ③絵本の言葉に合った楽器を探し、最後に歌を入れる事で盛り上がり終わることができるようにした。
--

Bクラス4は、オリジナルのメロディーの歌は、2、6、10、14、18、20、25、29ページの言葉のリズムを利用して作った。1小節目のフラット記号を使った部分が不安定な感じを出し、不気味さが感じられる。この歌は何度も繰り返し使われ、印象付けられていた（譜例13）。

譜例 13



5ページのキラリラ（譜例14）、グワーン（譜例15）、コキーン（譜例16）、ゴカーン（譜例17）をグランドピアノで表現した。言葉の響きに合わせて「キラキラ」と「コキーン」を高音で、「グワーン」と「ゴカーン」を低音でのトーンクラスターで表現している。

譜例 14



譜例 15



譜例 16



譜例 17



表17より、場面に合う楽器選び、何度も出るフレーズにメロディーを付けて楽しめるようにしたこと、最後を歌で終えることなど、音楽を総合的に表現する工夫をしたことがわかる。

手作り楽器ではカプセルにビーズなどを入れたマラカスの音で、空に星が降る様子を表現していた。手作り楽器は以前授業で製作したものを使用した。

最後のこどもが扇風機の風で飛ばされる場面で、児童唱歌《こどもはかぜのこ》を歌っていた。

4.2 絵本に音楽を付ける創作活動の感想

グループ発表の後に学生が振り返りシートに記入した絵本に音楽を付ける創作活動の感想を紹介する（表18）。

表 18 絵本に音楽を付ける創作活動の感想

①似た音をあてるのは難しかった ②メロディーに乗せるのが難しかった。イメージに合った音を見つけられたので、リズムや鳴らし方をもう少し工夫したら良かったと思う。 ③もっと沢山の音やリアルな音が付けられたかなと感じた。 ④グループで行うことで、違うアイデアが出て創作活動を進める意欲につながった。 ⑤手作り楽器を使うことで、雰囲気が変わって面白かった。 ⑥絵本の中で音を見つけるのは難しい部分もあったが、ピアノなどでセリフを読みながら音をつけていくうちにセリフと音楽があった時の楽しさや面白さを感じることができた。また、セリフを歌にすることで、また一味違ったシーンになるというのもとても楽しかった。 ⑦子どもの反応を見ることができて良かったと思うので、子どもの反応が見たかった。 ⑧やる気の違いや理解度の違いがあり、チームワーク作りの難しさを感じた。 ⑨普段絵本に音楽を付けることがないので、どうやって音楽をつけたらいいのかわかるのが大変だった。 ⑩難しかった。オリジナルの歌があまりうまくいかなかった。

①見ている人がどう感じるか、より楽しんでもらうためにはどうしたらよいのか考えながら取り組んだ。言葉に音楽を付けるという活動はあまりなかったので、保育者の視点を踏まえて活動を行った。 ②グループ全員で意見を出しながら楽器やメロディーをつくっていくのがとても楽しかった。 ③「どんなおと？」の部分が多く音を付けやすかったが、どの楽器で表せば良いかと考えて創作活動するのが難しかった。オリジナルで考えた曲を一部入れる時、絵本に合うように考えるのが難しかった。 ④メロディーをつくり出すことはとても難しかった。絵本のセリフを使って音楽をつくり出すことは同じセリフであっても、音によって雰囲気は全く変わるという面白さにも気が付いた。同じ音でも大きさを変えるだけで面白くなっていた。 ⑤どんな音が合うかどうかやったら歌い出しやすいかなど、グループで話し合いながら楽しんで作り上げることができて良かった。 ⑥今まで曲に歌詞を付ける経験はあったが、絵本に音楽を付ける活動は初めてで楽しかった。子どもは曲に自分で歌詞を付けて歌ったり替え歌を楽しんだりするのも好きだと思うので、保育活動にいかしていきたい。 ⑦本から音を想像して読み取り、さらに楽器で表すのはとても難しかったが、楽しく発表できた。 ⑧どのような音、楽器を付けるかなど色々考え、話し合いながら進めるのが楽しかった。 ⑨絵本に音を付ける活動が初めてだったので面白かった。楽器が好きなので、どの楽器が合うか考えるのが楽しかった。ただ絵本を読むよりも内容が伝わりやすく、歌を入れる事で楽しい雰囲気になるとわかった。

絵本に音楽を付けた感想は、難しかったが楽しかった(⑥⑭⑰)、楽しかった(⑤⑫⑮⑯⑱)、難しかった(①②⑨⑩⑬)という感想がみられた。音に関しての感想が多く書かれていて、リズムや鳴らし方の工夫(②⑭)、イメージに合う音の付け方(②③⑥⑨⑬⑮⑰⑱)、音による雰囲気の変化(⑭)などがみられ、特にイメージに合う音の付け方について多くみられた。手作り楽器に関しては、手作り楽器を使うことで雰囲気が変わり面白かった(⑤)や、意見を出して楽器を作るのが楽しかった(⑫)など音楽の雰囲気の変化への気付きと楽器製作の両方の感想があった。

また、歌に関しては、セリフを歌にすることで一味違う(⑥)、難しい(⑩⑬⑭)、意見を出しメロディーをつくるのが楽しかった(⑫)、歌い出しやすさの工夫(⑮)、保育活動にいかしたい(⑯)歌を入れると楽しい雰囲気(⑱)などがみられた。保育者として、子どもの反応を見て改善したい(⑦)、保育者の視点を踏まえて行った(⑪)、保育活動にいかしていきたい(⑯)がみられた。他にもグループでの創作に関して、チームワーク作りの難しさ(⑧)もあったが、意見を出し合うことで意欲が出る・楽しい(④⑫⑮⑱)と好意的な感想が多かった。

4.3 グループ発表を終えた感想

グループの発表を終えた後に学生が記入した発表をして感じたことと鑑賞をして感じたことを紹介する(表19)。

表 19 グループ発表を終えた感想

①A2グループががとても綺麗でできていて心地が良かった。実際に発表してみても難しかった。ピアノを使うことでまた違った形になり、太鼓1つとっても手作りすることで音が1つ1つ違うのすごいと思った。 ②他のグループは言葉にメロディーを付けていて面白く、本当にある歌のようだった。絵本に合った音楽で、きく側がわくわくした。 ③他のグループは見方も違い面白かった。ラッパの手作り楽器はとても良くできたと思った。 ④本の読み方で注目を集めるだけでなく楽器が入ることでより場面へのイメージが広がり楽しさを感じた。 ⑤みんな自分の発表の時楽しそうで、こっちは自然と笑顔になった。 ⑥本の内容に合わせてグループごとに使う楽器の種類が異なり、味がかった。 ⑦1人休みで心配だったが、協力して大成功に終えることができて良かった。 ⑧みんなと合わせて歌を歌ったり、セリフを言ったりすることが楽しくできた。 ⑨音を付ける時は、絵本選びが一番大切かと思った。 ⑩普通の楽器と違い、手作り楽器は面白い音が出ると感じた。 ⑪どのグループもシーンに合わせた歌や効果音を付けており工夫が見られた。見ていて楽しくなるような発表だった。今回の活動を実践にいかせるようにしたい。 ⑫本番でドタバタしたが、見ている人も演奏している人も楽しんで発表できた。全員で力を合わせて活動ができてとても良い経験になった。 ⑬自分たちで作ったものとは違う曲の入れ方や楽器の使い方で見ていて面白かった。同じ曲を繰り返して行うのも飽きずに見ることができた。 ⑭絵本の世界に入り込んで皆で演奏することができた。 ⑮絵本の読み方、音の鳴らし方、間合いの取り方など一つ一つ工夫して創作することで、絵本の内容に合った演奏ができあがると感じた。 ⑯グループによって全く違う雰囲気が感じられて、沢山の種類の楽器を使って「音」を楽しんでいるグループもいれば、絵本を読むことを大切にして「音」は添えるだけのグループもいて、とても面白くてどれも素敵だった。 ⑰グループ発表を聞き、楽器を多く使うことで、どの楽器を使うのかどんな音が出てくるのかとワクワクすることに気付くことができたので、楽器は多く使うと聞いている人が面白くなるのではないかと感じた。 ⑱最後に歌があると、よりワクワクとした気持ちで、終わることができるだけでなく、すっきりとした感覚で終わることができると感じた。 ⑲スムーズにまとまりのある発表ができたかなと思う。他のグループは沢山の楽器を使ったり、エンディングソングを歌ったりしていて、個性が出て面白かった。 ⑳思ったように発表はできなかったが、楽しくできたから良かった。グループによって表現が違い発見などもあり、良い活動だったと思う。 ㉑同じ楽器でも音の強弱の付け方を工夫するとより多くの音を発見できると感じた。 ㉒各グループそれぞれで選んでいる本も、音の付け方も全く異なっているので、見ていて楽しむことができた。 ㉓グループで協力できたので良かった。他のグループは違う楽器を使っていて面白かった。楽器の種類が多いとより盛り上がると思った。
--

他のグループ発表を聴き、楽しく、わくわくしたと感じた感想が多かった(①②③⑤⑪⑫⑬⑭⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓)。活動と発表が上手くでき、満足感を得た、絵本の世界に入り込めたなどの感想も多かった(⑦⑧⑫⑭⑳㉑㉒)。

楽器に関して、楽器が入ることでイメージが広がる(④)、本の内容で使う楽器が違い、味がある(⑥)、楽器の使い方、鳴らし方(⑬⑮㉑)、楽器が多いとどんな音が出てくるかと盛り上がる(⑰㉑)などイメージが広がる効果、使い方や鳴らし方への関心、楽器への関心などがみられた。

手作り楽器に関しては、手作り楽器の音が1つ1つ違うことの良さ(①)、既存の楽器と違って面白い音を感じた(⑩)、楽器のできに満足(③)がみられ、音と完成度についての感想があった。

歌に関して、他のグループの創作した歌を感心(②)、歌うのが楽しい(⑧)、シーンに合う歌に共感(⑪)、最後に歌がある効果(⑱㉑)などがみられた。

発表全体の表現方法について、効果音や曲の入れ方(⑪⑬)、同じ曲の繰り返しの手法(⑬)、絵本の読み方、音の鳴らし方、間合いの取り方の工夫で内容に合う演奏が可能(⑮)、沢山の楽器を使い「音」を楽しむ方法と、読むことが主で「音」を添える方法への気づき(⑯)、グループによる表現の違いの気づき(⑯㉑)、表現から個性を感じた(⑲)など表現方法についての違いを感じ取った感想もみられた。また、保育者として実践にいかしたいという感想もあった(⑪)。絵本選びの大切さに気付いたという感想があった(⑨)。

5. 考察

絵本に効果音を付けること、絵本の文を利用したオリジナルの歌を創作することに加え、手作り楽器で音楽を付けることを取り入れて、絵本に音楽を付ける創作活動と発表を実施した。実施の結果を、①手作り楽器を使った表現方法、②手作り楽器を導入した創作方法、③手作り楽器を導入した創作活動と発表の実践の意義の3つの視点から考察する。

5.1 手作り楽器を使った表現方法

Aクラス1、Aクラス3、Aクラス4、Bクラス1は手作り楽器で音を再現する方法がみられた。Aクラス1は、歯磨きの音、壊れたラッパのような音を再現した。Aクラス3は、石を叩く音、荷物を準備する音や料理をする音を再現した。Aクラス4は、太鼓の音色を再現した。Bクラス1は雨の降る音を再現した。音はそれぞれのグループがイメージしたであろうリアルな音が再現されていた。既存の楽器は出る音がすでに決まっていて、イメージが固定化されているので、音を再現するためのイメージに合う楽器を見つけ出すのが難しい面がある。しかし手作り楽器は自ら音を作ることができ、さらに普段からよく特徴を知っている身近な素材を使って製作するからこそ、イメージに合ったさまざまな音を作りだすことが可能だと考えられる。Aクラス3は以前授業で製作した手作り楽器を使用して表現できていたが、音を再現する際は、手作り楽器を一から製作する方が適していると考えられる。

Aクラス2、Bクラス4は手作り楽器で場面の様子を表現する方法がみられた。Aクラス2は、登場人物がモモンガーごっこをする場面を表現し、ストロー笛独特の強烈な「ビッツ ビッツ」という音色で表現した。Bクラス4は、空に星が降る様子を手作り楽器の素朴な音色で表していた。場面の様子の表現は、手作り楽器が持つ固有の音色で表現されるからこそ、表現する側のイメージを共有している感覚になった。

Aクラス3は手作り楽器で言葉を強調する方法がみられた。「たまご」の3音と「ぼん」の言葉を強調するように鳴らした。言葉を強調する表現は既存の楽器でも可能ではある。しかし手作り楽器が持つ素朴な温かみのある響きの効果で、心地よい音での表現が可能となっていた。

Bクラス2は注目させ、場面を盛り上げる表現方法がみられた。質問に対する答えの前に、手作り楽器で効果音を鳴らし、答えに注目させ、場面を盛り上げる表現をした。既存の楽器でも可能な表現ではあるが、聴衆が初

めて聴く音色を使い、注目させる表現であった。

Bクラス3は言葉の響きを表現する方法がみられた。手作り楽器で「ころ ころ」の言葉の響きを、手作り楽器特有の素朴な音の響きで表していた。この表現は全体を通して表現される「ころ ころ ころ」と転がる様子を木琴のグリッサンドで表現している方法に対して、アクセントになっていた。全体の音楽の流れの変化も生み出していた。

Aクラス4は絵本の絵と外見が同じ楽器を製作する視覚的な表現方法がみられた。絵本の登場人物が首にぶら下げている太鼓を製作した（出る音色は1つ目の音の再現に分類した）。聴衆側が視覚でも楽しめる表現であると考えられる。しかし、この表現をする際は、見た目だけを重視するのではなく、イメージの音を表現することを忘れてはいけないと考える。

以上から、絵本に音楽を付ける手作り楽器の表現は6つの表現方法があることがわかった。①音の再現、②場面の様子、③言葉の強調、④場面の盛り上げ、⑤言葉の響き、⑥外見が同じ楽器を表現する方法である。そしてこの表現方法には①はイメージに合う音を作ることができ、②はイメージした場面の音を聴衆と共有でき、③は心地よい音で強調ができ、④は特有の音で聴衆を注目させることができ、⑤は素朴な音の響きで表すことができ、⑥は視覚でも楽しむことができるという表現の特徴があることがわかった。そして①から⑤の表現には音を聴き表現するという要素が含まれている。また、4.2と4.3には、手作り楽器を使って創作することで音楽の雰囲気が変わることを学生自身が面白く感じ、意見を出し楽器を製作する楽しさ、手作り楽器によって音が違い面白い音がするなどの感想があった。学生が手作り楽器の音の魅力、音を作りだす楽しさを感じており、これらの手作り楽器の気付きが自由な発想の表現に繋がっていることがわかった。

5.2 手作り楽器を導入した創作方法

Aクラス1、Aクラス3、Aクラス4は手作り楽器を中心に創作した発表がみられた。Aクラス1は、子どもが真似できる音、イメージしやすい音などの工夫をした。そしてその方法として手作り楽器を中心に使うことでイメージの音を表現していた。Aクラス3は鳴らすタイミングの工夫をした。大部分を手作り楽器で音楽表現しており、言葉、場面などに合わせて自由な発想で表現していた。またオリジナルの弾むメロディーの歌によって音楽に楽しさが加わっていた。Aクラス4は手作り楽器を中心に工夫した。3種類の太鼓のうち2個の外見を絵と同じに製作し、既存の楽器と共に様々な太鼓の音を表現していた。オリジナルのメロディーが楽器だけの音に変化を付けていた。

また、Bクラス1とBクラス3は既存の楽器を中心に創作した発表がみられた。Bクラス1はイメージに合わせた楽器や演奏方法などの工夫をした。手作り楽器、無音で音に変化を付けていた。またオリジナルのメロディーでは民謡音階の歌を歌い、それによってさらに絵本のイメージを加えていた。Bクラス3は楽器を中心に、手作り楽器と歌で音楽に変化をつけ、シンプルに表現していた。

以上よりAクラス1、Aクラス3、Aクラス4、Bクラス1、Bクラス3は、音を表現することに対し特に意識をしていたことがわかった。手作り楽器を中心に創作したグループは手作り楽器によってイメージを音にする表現方法の幅が広がったように考えられる。また、既存の楽器を中心に創作したグループは楽器の鳴らし方を工夫し、手作り楽器はそこに固有の音色で変化を加えていた。そして5グループともオリジナルのメロディーの歌が変化や雰囲気を音楽に加える働きをしていた。音に関し4.2では多くの感想がみられ、特に音の付け方に対して多くの学生が意識を持って取り組んでいたことがわかる。このことから手作り楽器を使うことによって音を表現する意識が高まり、表現の幅が広がったことがわかった。

Aクラス2は、キーボードや手作り楽器を使った場面への音楽付け、繰り返しの歌での印象付けを工夫した。発表は歌、BGM、手作り楽器などで総合的に表現していた。Bクラス2は子どもが口ずさめる歌、同じ言葉に同

じ音楽を付け繰り返すこと、音への意識などを工夫した。歌、楽器、手作り楽器などを総合的に表現していて、特徴として絵本に掲載された歌とオリジナルのメロディーの歌を融合させた表現を作っていた。Bクラス4は、楽器選び、同じ言葉に同じ音楽を付けること、最後に歌を歌うなどの工夫をした。ピアノや歌、手作り楽器などで総合的に表現していた。

以上よりAクラス2、Bクラス2、Bクラス4は音楽を総合的に創作していたことがわかった。前研究⁴¹の方法でも作曲、歌、楽器から音楽を総合的に表現できるとわかったが、今回そこに手作り楽器が加わり、既存の楽器とは違う素朴な響きが、表現に温かみをもたらし、手作り楽器が持つ独特の音色によって音楽自体に個性が加わっていた。また、前研究⁴²にもみられたが、3グループとも繰り返す言葉に歌を付け反復させ、印象付けていく表現方法がみられた。そして前研究⁴³では絵本に掲載された歌を使わない方が、表現を自由にできると述べた。しかし今回Bクラス2の発表で絵本に掲載されている曲とオリジナルのメロディーの歌の融合による自由な表現ができることがわかった。これは明確なイメージをもって絵本の歌を自分たちの表現の手段として取り込むことができたからだと考えられる。

5.3 手作り楽器を導入した創作活動と発表の実践の意義

発表を見た後に学生は多くの表現方法に気付いたことがわかった。例えば、4.3の楽器を使って音を楽しむ方法と、読み手が主で音を添える方法への気付きや、表現の違いへの気付き、個性を感じたことなどである。これは手作り楽器を導入したことで、表現方法の幅が広がったためと考えられる。前研究⁴⁴と同様に4.3の他のグループの発表を聴き、楽しくわくわくしたという感想と、発表に満足したという感想も確認できた。実際に発表の時は楽しそうに発表し、嬉しそうに鑑賞する学生の姿もあった。発表し合うことで表現を受け取り、表現の違いに気付き、楽しさを感じられていたように考えられる。

また、4.2ではグループでの創作活動に関して意見を出し合えて意欲が出る、楽しいと好意的に捉えた感想が多かった。グループ内で絵本の音楽のイメージを伝え合い、楽器を探し、手作り楽器を製作し、意見を出し合いながら音楽を創作する過程を楽しんでいたことがわかる。このことは4.2の音に関する感想が多かったことに関係していて、手作り楽器を導入したことにより、音を聴き、イメージした音楽を表現しようとする意識が高まり、それを共有することを楽しんでいたと考えられる。

そして4.2の創作で保育活動にいかしたい、子どもの反応を見て改善したい、4.3の実践にいかしたいとの感想があった。この実践経験を通して、保育現場で子どもと実践してみようと考えたことがわかる。

6. 結論

本研究は、①手作り楽器を使った表現方法、②手作り楽器を導入した創作方法、③手作り楽器を導入した創作活動と発表の実践の意義を明らかにすることを目的とした。

1つ目に絵本に音楽を付ける手作り楽器を使った表現方法が①音の再現、②場面の様子、③言葉の強調、④場面の盛り上げ、⑤言葉の響き、⑥外見が同じ楽器を表現する6つの方法があることがわかった。①はイメージに合う音を作ることができ、②はイメージした場面の音を聴衆と共有でき、③は心地よい音で強調ができ、④は特有の音で聴衆を注目させることができ、⑤は素朴な音の響きで表すことができ、⑥は視覚でも楽しむことができるという表現の特徴があることがわかった。そして学生が手作り楽器の音の魅力、音を作る楽しさを感じ、この気付きが自由な発想の表現に繋がったことがわかった。

2つ目に手作り楽器を導入した創作方法では、創作方法には大きく2つあり、音を表現することを意識した創作方法と、音楽を総合的に考える創作方法があることがわかった。音を表現することを意識した創作方法は2つに分類でき、手作り楽器を中心に創作する方法と、既存の楽器を中心に創作する方法があることがわかつ

た。手作り楽器中心の創作方法は手作り楽器によって表現方法の幅が広がり、既存の楽器中心の創作方法は手作り楽器固有の音色で変化を加えられ、手作り楽器を使うことによって音を表現する意識が高まり、表現の幅が広がったことが明らかとなった。総合的な創作方法では手作り楽器が加わり、独特の音色によって音楽に個性が加わるということがわかった。また、絵本掲載の歌とオリジナルの歌の融合による自由な表現もできることがわかった。

3つ目に手作り楽器を導入した創作活動と発表の意義では、手作り楽器を導入したことで、表現方法の幅が広がり、発表し合うことで表現を受け取り、表現の違いに気付き、楽しさを感じたことがわかった。またグループでの創作活動の過程で、手作り楽器を導入したことにより、音を聴き、イメージした音楽を表現しようとする意識が高まり、それを共有することを楽しんでいたことがわかった。この実践を経験し、子どもと実践したいと考えた学生もいることがわかった。

以上のように絵本に音楽を付ける手作り楽器の表現方法は6つあり、手作り楽器の音の魅力や製作の楽しさの気付きが自由な発想の表現に繋がった。また創作方法では、音の表現を意識する創作方法では手作り楽器によって音を表現する意識が高まり、音楽を総合的に考える創作方法では手作り楽器が加わることで、音楽に個性が生まれた。そして実践において、発表では、手作り楽器の導入によって、表現方法の幅が広がり、表現を受け取り、さまざまな表現の違いに気付き、楽しさを感じていた。さらに創作過程では手作り楽器の導入によって、音を聴き表現する意識が高まり、イメージした音楽の共有を楽しむことができることが明らかになった。

今後の課題としては、創作に難しさを感じ、順調に創作が進まないグループがあったため、創作活動の進め方も課題であるとする。また以前の授業で製作した手作り楽器を使用したグループがあったが、イメージにあった音を作り出すためには一から手作り楽器を製作することが必要なのではないかと考える。そして手作り楽器の研究も課題であるとする。

注及び引用文献

- ¹ 土谷育代 (2024) 「絵本を音楽で表現する創作活動における方法と可能性」『函館大谷短期大学紀要』第38号, pp.44-65.
- ² 同上
- ³ 文部科学省 (2017) 『幼稚園教育要領』
- ⁴ 厚生労働省 (2017) 『保育所保育指針』
- ⁵ 内閣府・文部科学省・厚生労働省 (2017) 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
- ⁶ 山本学 (2018) 「第4章代表的な音楽教育家とその理論」谷田貝公昭監修, 渡辺厚美・岡崎裕実編著『コンパクト版保育内容シリーズ⑤音楽表現』一藝社, pp.38-39.
- ⁷ 大南匠 (2009) 「2章生活や遊びの中での音楽表現4節保育現場での音環境を考える」石井玲子編著『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社, p.45.
- ⁸ 菅野道雄 (2009) 「11章創造的音楽づくり2節創造的音楽づくりの特徴」石井玲子編著『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社, p.145.
- ⁹ シェーファー, R.M.・今田匡彦 (2009) 『音さがしの本 リトル・サウンド・エデュケーション』春秋社.
- ¹⁰ 神原雅之・鈴木恵津子共著 (2018) 『改定幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社, p.19.
- ¹¹ 中村千晶 (2010) 「子どもの楽器を用いた活動に関する一考察 その2—楽器製作をとおして—」『教育学論究』第2号, pp.95-104.
- ¹² 山本敦子 (2017) 「児童館での手作り楽器製作と演奏活動の企画実践における保育者養成課程学生の学び

- (1) 一学生の実践の振り返りをもとに—『高田短期大学紀要』第35号, pp.59-71.
- ¹³ 加藤智也 (2022) 「手作り楽器を使用したリズム遊び動画の検討」『名古屋芸術大学人間発達研究所年報』第10号, pp.11-16.
- ¹⁴ 谷中優 (2018) 「手作り楽器によるアンサンブル活動の研究—創造性を育む音楽教育について—」『音楽教育メディア研究』第4巻, pp.43-57.
- ¹⁵ 黒宮可織・鎌田千佳・二見美千代 (2020) 「幼児の探索的な活動に関する研究—こども園における手作り楽器のワークショップを事例として—」『音楽教育メディア研究』第6巻, pp.57-68.
- ¹⁶ 吉原達也 (2020) 「領域『表現』における『自然の音に気づく』手作り楽器の創作とサウンド・エデュケーションへの導入」『下関短期大学』第38号, pp.13-23.
- ¹⁷ 北浦恒人・滝沢ほだか・横田典子 (2016) 「幼児から児童を対象とした総合的な表現活動の試みと支援—手作り楽器を用いた参加型ペープサート音楽劇を中心として—」『岡崎女子大学・岡崎女子短期大学地域協働研究』2号, pp.25-32.
- ¹⁸ 山本敦子 (2020) 「子どもの手作り楽器活動における演奏体験を能動的に促すための試み (1) —保育者養成課程学生による絵本を用いた取り組みより—」『高田短期大学紀要』第38号, pp.11-22.
- ¹⁹ 細田淳子 (2006) 『わくわく音遊びでかんたん発表会～手拍子ゲームから器楽合奏まで～』鈴木出版株式会社, pp.30-31.
- ²⁰ 井本英子 (2018) 「第13章音楽と物語の融合」谷田貝公昭監修, 渡辺厚美・岡崎裕実編著『コンパクト版保育内容シリーズ⑤音楽表現』一藝社, pp.107-108.
- ²¹ 高橋由起 (2020) 「第10章奏でる活動の実践指導とは第4節手作り楽器の活動と意義」石井玲子編著表現を育てるための「保育内容—音遊びから音楽表現へ—」教育情報出版, p.115.
- ²² 櫻井琴音 (2012) 「創造的音楽活動の教材に関する一考察—紙芝居の効果音—」『西九州大学子ども学部紀要』第3号, pp.27-37.
- ²³ 土谷育代 (2024) 前掲書, pp.44-65.
- ²⁴ シェーファー, R.M.・今田匡彦 (2009) 前掲書.
- ²⁵ 千葉修平 (2020) 「第6章環境を奏でる1環境音・2環境音から音楽表現へ」駒久美子・味府美香編著『コンパス 音楽表現』建帛社, pp.57-62.
- ²⁶ 香宗我部琢 (2020) 「第6章環境を奏でる3サンプリングから映像まで」駒久美子・味府美香編著『コンパス 音楽表現』建帛社, pp.62-64.
- ²⁷ 香宗我部琢 (2009) 「第7章楽器あそびを中心とした表現活動②—手作り楽器で遊ぶ—1節身近な楽器でなる音を探す2節手作り楽器の例」石井玲子編著『実践しながら学ぶ子どもの音楽表現』保育出版社, pp.98-100.
- ²⁸ 土谷育代 (2024) 前掲書, pp.44-65.
- ²⁹ 同上
- ³⁰ 河合隼雄・松居直・柳田邦男 (2001) 『絵本の力』岩波書店, pp.15-43.
- ³¹ 細田淳子 (2006) 前掲書, pp.30-31.
- ³² 中野由紀子 (2021) 「第2章歌う表現活動 4.物語と音楽」中野由紀子編著, 浅賀ひろみ・長永理恵・山岸智秋共著『幼稚園教諭・保育士養成課程 音楽表現そのまま使える基礎と実践』共同音楽出版社, pp.31-33.
- ³³ 疇地希美 (2020) 「第8章絵本と音楽」駒久美子・味府美香編著『コンパス 音楽表現』建帛社, p.82.
- ³⁴ 井本英子 (2018) 前掲書, pp.106-107.
- ³⁵ 神原雅之・鈴木恵津子共著 (2018) 前掲書, pp.178-179.

- ³⁶ 末廣麻由子 (2017) 「音楽科における創作活動の授業実践—幼・小・中一貫校の特色を生かした旋律づくり—」『広島大学附属三原学校学園研究紀要』第7集, pp.195-200.
- ³⁷ 須崎朝子・林加奈編著, 深見友紀子監修 (2012) 『幼稚園・保育園で人気の創造性を育む音楽あそび・表現あそび毎日の活動から発表会まで』音楽之友社, pp.74-78.
- ³⁸ 土谷育代 (2024) 前掲書, pp.44-65.
- ³⁹ 井上明美 (2020) 『親子で! おうちで! さくっとできる! 超★簡単 楽器づくり』ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス.
- ⁴⁰ 吉田未希子 (2017) 『音が出るおもちゃ&楽器あそび』いかだ社.
- ⁴¹ 土谷育代 (2024) 前掲書, pp.44-65.
- ⁴² 同上
- ⁴³ 同上
- ⁴⁴ 同上

使用した絵本

エリック・リトウィン作・ジェームス・ディーン絵・大友剛訳・長谷川義史文字画 (2013) 『ねこのピート だいすきなしろいくつ』ひさかたチャイルド.

Tupera Tupera作 (2009) 『どんなおと?』教育画劇.

中川李枝子作・大村百合子絵 (1967) 『ぐりとぐら』福音館書店.

長谷川摂子作・ふりやなな画 (1990) 『めっきらもっきら どおんどおん』福音館書店.

長谷川摂子作・降矢なな絵 (1994) 『きょだいな きょだいな』福音館書店.

元永定正作 (1984) 『ころ ころ ころ』福音館書店.

山下洋輔文・長新太絵 (1995) 『ドオン!』福音館書店.

教材として取り上げた絵本

エリック＝カール作・森比左志訳 (1981) 『うたがみえるきこえるよ』偕成社.

エリック＝カール作・もりひさし訳 (1989) 『はらぺこあおむし』偕成社.

エリック・リトウィン作・ジェームス・ディーン絵・大友剛訳・長谷川義史文字画 (2013) 『ねこのピート だいすきなしろいくつ』ひさかたチャイルド.

沢田としき (1996) 『アフリカの音』講談社.

鶴見正夫詩・高見八重子絵 (2009) 『あめふりくまのこ』ひさかたチャイルド.

谷川俊太郎文・中辻悦子絵・写真 (1998) 『よるのようちえん』福音館書店.

富成忠夫・茂木透写真・長新太文 (1990) 『ふゆめがっしょうだん』福音館書店.

やなせたかし作・絵 (1975) 『やさしいライオン』フレーベル館.

参考CD

新沢としひこ (2000) 「はらぺこあおむし」『エリック・カール絵本うた』コンセル.